

幼保小連携研修だより

NO. 2
秋田市教育研究所
H29. 3. 3

秋田市私立幼稚園・認定こども園協会、秋田市民間保育所・認定こども園協議会、秋田市小学校校長会は、本市の幼保小連携の在り方について広く意見交換するとともに、幼保小連携に関する実践的な取組を通じて、本市の幼児教育・保育・小学校教育ならびに子育て支援の一層の発展を図るため、「秋田市幼稚園・保育所・小学校連絡協議会」を設置しています。本協議会は、毎年度1回定例会を開催し、各地区部会で実施した活動について報告し合うとともに、幼保小連携の在り方についての意見交換を行っています。今号では、2月に行われた定例会の様子について紹介します。

また、来年度開催予定の小学校と幼稚園、保育所、認定こども園の教員や保育士を対象とする秋田市教職員研修についても紹介します。

「秋田市幼稚園・保育所・小学校連絡協議会」定例会を開催

日 時 平成29年2月13日（月） 15:00～16:30

会 場 秋田市教育研究所 第3研修室

- 内 容
- ・会長あいさつ 秋田市立東小学校 加賀美俊一 校長
 - ・活動報告 「今年度の各地区部会での取組について」
 - ・協 議 「幼保小連携の充実に向けて」
 - ・連 絡
 - ・秋田市子ども未来部子ども育成課から
 - ・秋田市教育委員会学校教育課から
 - ・副会長あいさつ あきたチャイルド園 澤口 勇人 園長



○活動報告から○

- ・6月に幼保の教職員が小学校の授業を参観する機会を設けた。入学後の児童の様子を参観したことで、年長児への教育や保育の在り方を改めて考えることができた。
- ・授業や保育の様子を参観する機会は増えているが、その後の協議にも参加し、子どもの姿をとおして指導や支援の在り方について話し合うことが大切である。
- ・配慮を必要とする子どもについての情報交換を早い時期に行い、適切な支援の在り方を一緒に考える場を設けたい。
- ・各小学校が作成した「スタートカリキュラム」の内容を幼保と共有し、接続期に配慮することについて共通理解を図ることが、子どもたちが安心して小学校生活を送ることにつながると感じた。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- ①健康な心と体
 - ②自立心
 - ③協同性
 - ④道徳性・規範意識の芽生え
 - ⑤社会生活との関わり
 - ⑥思考力の芽生え
 - ⑦自然との関わり・生命尊重
 - ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 - ⑨言葉による伝え合い
 - ⑩豊かな感性と表現
- 文部科学省 幼稚園教育要領（案）より

○協議から○

- ・幼稚園教育要領の改定案は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示しており、小学校への接続をさらに見通した内容になっている。
- ・幼児期に遊びをとおして身に付けた力が、小学校以降の生活や学習の基盤になることを念頭に置くことが大切である。
- ・10の姿は、到達目標ではない。それぞれの就学前施設が、どこを重点にして取り組んでいるのかを理解する必要がある。

平成29年度秋田市教職員研修案内

(幼保小連携に関わる研修会)

「幼保小連携研修会」

期日：平成29年8月3日（木）午前
場所：秋田市教育研究所
秋田市茨島一丁目4-71



H28「幼保小連携研修会」より

内容：講義・演習 「幼児教育の現状と小学校との接続について」
講師 にいだこども園 園長 石川 勲 氏
グループ協議 「スタートカリキュラムやアプローチカリキュラム
に生かす情報交換」

「生活科研修会」

期日：平成29年8月3日（木）午後
場所：秋田市教育研究所
秋田市茨島一丁目4-71



H28「生活科研修会」より

内容：講義・演習 「新学習指導要領を踏まえた授業の在り方
～みんなのここにこ大きくせん～」
グループ協議 「幼児と児童の交流活動の計画」

※生活科は、幼児教育と小学校教育の両方の性格を併せもつ、幼保小連携の鍵を握る教科です。幼保の先生方にとっても指導のヒントが見つかるはずです。

「特別支援教育研修会」

期日：平成29年8月21日（月）午前
場所：秋田市教育研究所
秋田市茨島一丁目4-71



H28「特別支援教育研修会」より

内容：講義 「発達障がいのある子どもの理解と支援の在り方」
講師 秋田大学教育文化学部 学部長 武田 篤 先生
グループ協議 「特別な支援を必要とする児童生徒への支援と関係者や関係機関との連携」

※いずれの研修会も現段階での予定です。小学校には4月に、幼稚園、認定こども園、保育所（園）には6月に、改めてご案内いたします。